本校には開校以来ずっと変わらないものがあります。それは生徒が生涯にわたり「学び続ける」姿勢を身につけて欲しいという願いです。そのことにより、いかに社会がめまぐるしく変化しようと、またどのような状況に置かれようとも、自分を頑丈に守る鎧となり、自信をもって自己の可能性を推進する力となることと信じています。このようなことから「学び続ける」ことの素晴らしさ、尊さを、本校での学校生活から身につけてもらいたいと願っております。

本校の校訓は「真剣に学ぼう」「健康な心と体を作ろう」「信愛の心を持とう」です。これは授業、スポーツ、芸術等の文化的な活動を通して、３つの精神をバランスよくもった大人になることを、本校の教職員において揺らがない教育の指標とし、同時に自律的にどのようにすれば出来るのかという生徒への問いかけになっています。

さて、この数か月間続く新型コロナウイルス感染症に係わる事態から、私たちが得た教訓は、何か大きなショックが発生すると社会の価値のあり様が急激に変わりゆくということです。そして、これまでに経験したことのない局面において人の生き方や哲学にさえ影響を及ぼしていきます。このような状況下では将来想定しているキャリアさえも不確実なものにみえてきます。

しかし、不確実で想定できない時代であるがゆえに、考えつくことができないような道を将来見つける可能性もあるということです。そのためには、学ぶことはもちろん、考え続けること。そして、最も大切なことは、タフな精神力と冷静な思考力の両方を持ち続けること。これからの子どもたちには、今までにない新しい役割を引き受け、困難な状況でも人間関係を築き、どのような世の中にも適応するタフネスがこれまで以上に求められます。

そのようにタフな心身とともに粘り強い生徒になってもらうため「物事を熱心にみる」「俯瞰して大きくとらえる」そして、「時代の潮目を読む」という３つの視点を意識し、先行き分からない、答えのない課題に果敢に取り組んでもらいたいと切に願っております。

末筆ではございますが、本来であれば、入試報告会は学校へお招きして活動の様子を ご覧いただくことにしておりましたが、今も新型コロナウイルス感染症の終息がみえず 5 月末まで休校しております。そのことから、今回はホームページ上で行うこととしま した。この報告会を通して本校の教育の一端でもご理解いただければ誠に幸いです。 私ども教職員一同、人生の中で中高６年間が豊かで貴重な時間となるようこれからも 教育に最善を尽くす所存です。

神奈川大学附属中学校

校長 菊池 久